



ASPAC広島大会 2013.3.7～9

3月7日から9日まで広島でASPAC(アジア・太平洋)大会が開催され、10以上の地区・国から750人余りのキワニアンが、「絆」～子どもたちのために、平和のために～をテーマに集まりました。参加者は、日本地区から最大の335人(東京からは28人)、次いで台湾277人、フィリピン(ルソン)52人等でした。本部からは、ボイ・バレンシアASPAC議長、トーマス・デジュリオ国際会長、グンター・ガッサー次期国際会長らが出席されました。

総会では各地区のガバナー報告等のほか、2013-2014・ASPAC国際理事の選挙が行われました。日本地区から立候補した清重元日本地区ガバナーとフィリピン(ルソン)地区から立候補したフローレンシオ・ポリー・ラット元ガバナーの一騎打ちとなりましたが、残念ながら清重氏の落選に終わり、今後の日本キワニスの国際展開に課題を残す結果となりました。



他方、ASPAC役員選挙では対抗馬はなく、議長には小田忠雄氏(日本地区)、次期議長にはジョセ・イケ・アルタバス氏(フィリピン・サウス地区)が選出されました。

また、来年の国際キワニス総会、ASPAC大会が日本で開催されることが正式に決定されました。

このほか、エリミネイト・プロジェクト・フォーラム(公開講演)として、「北里柴三郎と破傷風」と題して孫の北里一郎氏(元明治製菓社長、会長)の講演があり好評でした。

開会式では広島キワニスクラブ会員の書家のパフォーマンス、子ども達のマリンバ演奏や和太鼓が印象的であり、また歓迎夕食会(ジャパナイト)、閉会式・夕食会は知事、市長らの来賓を交え多数の参加者で盛大に行われたほか、会期中の見学ツアーとして瀬戸内海クルーズ、熊野筆工房、原爆資料館等の見学会、宮島観光、お茶体験、マツダ工場見学など盛り沢山の行事が計画され、地元広島クラブの周到な準備に支えられて大会は成功裏に閉幕しました。

緒方謙二郎会長

初めてASPAC大会に参加して

私は初めてASPAC大会に参加するため、広島を訪れました。多様性の国・米国に20年間駐在し、多様性のもたらす活力やダイナミズムを見せつけられていた私は、ASPACの多様性を楽しみにして広島に入りま

2013.3.7～9

した。言語、文化、習慣等の面での多様性に特徴付けられるASPAC(正月もあればラマダンもある)は、矢張り、活気やエネルギーに溢れ、大会も熱気を帯びたものでした。

アジアの躍動感は、台湾地区の321クラブ/12,015名会員や、フィリピン・ルソン地区の158クラブ/3,385名会員といった数字にも表れていると思



いました。これらの国では、若い会員が活発に活動しており、会員の家族も積極的に参加しています。様々な国のクラブが集まり意見交換をすることは、お互いに参考や刺激になり、有益だと思いました。

一連の会議に出席しましたが、矢張り、広島大会を盛り上げ、参加者間の親睦を深め、新たな絆を作ったのは、閉会式 & 夕食会でした。各国のパフォーマンスも華やかでしたが、特に広島の子どもの演奏やダンスは、ASPAC大会参加者を魅了し感動させた、素晴らしいものでした。

「私達の子どもの未来、彼らの未来」を提唱することがキワニスの使命であり、キワニアンは日々、世界の子ども達のために努力していますが、キワニアンも、広島大会に象徴されるように、子ども達によって日頃の努力を労われ、子ども達から教えられ、パワーを与えられ、また、励まされるのだと思いました。キワニスの活動や主要な大会に、可能な限り、子ども達の参加を得て、子ども達と対話や交流を行なうことが、キワニスとして彼らの未来のために活動し続ける上で、如何に大切であるかを強く感じさせられたASPAC広島大会でした。

大会を成功裡に終えた関係者、特に広島クラブの会員の皆様に敬服し、感謝し、そして心からの拍手を送りながら、広島を後にしました。

松見芳男副会長

エリミネイト・プロジェクト in ASPAC 広島

ELIMINATE

Kiwanis eliminating maternal/neonatal tetanus



全世界の組織を挙げて取り組んでいるエリミネイト・プロジェクトもこの大会での大きなテーマでした。私が参加したその活動のいくつかをご紹介します。

1 エリミネイト・プロジェクト・ウォーク

大会2日目の早朝、\$25で登録した88名の会員が平和公園を中心にホテルまで約1時間のウォーキングを楽しみました。ちなみに、平和公園では特定の団体や特定の思想信条の過激なアピール行動は禁じられています。街ゆく人に静かな訴えをしながら、会員自らがプロジェクトの意義の再確認をする機会でした。



2 エリミネイト・プロジェクト・ワークショップ

各地区のコーディネーターから状況や課題などについての発表が行われました。

横山ASPAC第2地域コーディネーターからはユニセフ・エリミネイトMNTの一環としてカンボジア視察の報告があり、今後1~2年で撲滅が達成できるとの見通しが述べられました。

また、Steve Hughes さん（オーストラリア地区コーディネーター）から寄付に充てるためにチョコレートやビスケットを売ったり骨董市で \$1 ~ 2 程度の品物を販売したり…など心温まる事例の紹介もありました。

3 エリミネイト・コーディネーター昼食会

参加者約 50 名が地区ごとの 5 グループに分かれ、プロジェクトの活動に関する討論を進め、その内容についてグループごとに発表しました。事前に、事務局から議論のたたき台が示されていましたが、極めて実務的であり、日本地区各クラブでは組織的かつ具体的な計画の下に取り組んでいる旨の報告（北里ガバナー、横山アジア太平洋第 2 地域コーディネーター）がなされ、事務局も日本地区の取り組み状況には高い関心を寄せていました。

4 エリミネイト・プロジェクト・フォーラム（公開講座）

国際キワニスがユニセフと共同で取り組んでいる妊産婦・新生児破傷風（MNT）撲滅運動「ELIMINATE PROJECT」を市民のみな様に紹介するとともに、今から 130 年程前にドイツの細菌学者ロベルト・コッホ博士の指導のもとで破傷風菌の純粋培養に成功した北里柴三郎博士の業績に付いての講演が市民公開講演会として開催されました。講師は、北里研究所相談役



北里一郎博士で、北里柴三郎博士のお孫さんに当たります。

A S P A C への参加は初めてでしたが、「Unite for Children & for Peace」のもと、アジア・太平洋のキワニアンと共通の思いの中で議論し合えることの意義を感じる会議でした。

松本一紀 エリミネイト・プロジェクト・東京クラブ・コーディネーター



キワニス・ユース・フォーラムについて

2013. 2. 1、2. 15

東京キワニスクラブは、平成 24 年 10 月にキワニス・ユース・フォーラムを創設しました。フォーラムの目的は、青少年のボランティア活動を支援し、会員相互の交流、協力を通じて活動のネットワークを拡充することです。

そのために、交流会を開催するほか、フォーラム会員の活動とキワニス活動との相互協力を目指します。現在の会員は下記の 6 団体ですが、毎年会員を増強する計画です。

（団体名）

ガクボラ
信州ライポ隊
ゆるかも
Live On
SOCIAL WORKEERZ
JUNKO Association

（主な活動）

養護施設での学習支援
少年の非行防止活動
児童買春問題解決のための活動
自死で親を亡くした子どものサポート
音楽、ダンスによる障害者支援
東南アジアの子どもの教育支援

（当クラブとの関係）

青少年教育賞受賞
青少年教育賞受賞
青少年教育賞受賞
青少年教育賞受賞
青少年教育賞受賞
青少年教育賞・奉仕賞受賞

本年 2 月 1 日および 15 日の例会に上記各団体の代表者お招きし、それぞれの活動の紹介をしてもらいましたが、若い人たちの高い理念と献身的な活動に出席者一同深い感銘を受けました。

また、7 月 6 日（土）17 時半から法曹会館において第 1 回の交流会を開催いたします。実りある交流会とするためキワニス会員の多数の参加を期待いたします。

中村禎良 K フアミリー委員長

高崎健康福祉大学における ドールの使い方

高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科 小児看護学講師の方からキワニスドールの使い方について、以下のとおり、お便りをいただきました。

「今年は、学生が頑張ってくれまして、良い写真をお送りすることが出来ます。

学生も一時間の講義+自分達の時間でどのように作成すればお子さんが理解してくれるか考えてつくることができました。

実際に紙芝居と併用し、キワニスドールも同じ体験



をしているところをお子さんが見ることで、ドールの頑張りを教え、お子さんの頑張る意欲も高まるということで作成したとのことでした。」



小児病棟で
子どもたちを見守る
小さな天使

DV シェルターへ初のキワニス・ドール大活躍!

DV(ドメスティックバイオレンス)シェルターとは、DV被害女性が耐えかねて逃げ出し、一時的に身を寄せる保護施設で、多くは民間の運営です。入居者は、半数以上が子ども連れで、多くは着の身着のまま逃げてくるなど心身ともに深く傷つき疲弊しています。施設のスタッフもそのケアや対処には、心を砕き、日々様々な問題に向き合っています。

NPO法人かながわ女性会議では、これらのシェルターに対し、スタッフ研修や企業・団体様からの金品の寄付を仲介するなどの支援を行ってきました。キワニス・ドールが、これら被害者・同伴児童の心のケアや立ち直りを支援するツールとして、きわめて有効なのではないかと考え、このたびドールの提供と講師派遣をお願いしました。

東京キワニスクラブ前会長の堀井さんが講師をご快諾くださって、神奈川県内の3シェルターにて、キワニス・ドールの紹介と実際にドールに絵をかくなどの

実地のご指導を行っていただきました。スタッフ研修として設定したのですが、あるシェルターでは、スタッフのほかに15,6名の入居者(乳幼児・子どもとその母、及び単身者)も参加したのです。一般に被害者は他人と一緒に何かすることなどとてもできないと考えられていて、私どももこの英断にはびっくりしたものです。結果、外出できない子ども達がフィーバー状態になるほど大喜びでした。ドールの持つ不思議な力と可能性を感じさせられた一幕でした。

いずれのシェルターもキワニス・ドールに直に触れるのは初めての経験で、「自分だけのドール」、「自分で創るドール」ということがとても心に響いたようでした。基本のドールづくりにも参加できるのでは?と、様々な可能性を発見できた今回の試みでした。今後もさらに回を重ね、様々な応用事例をつくっていかれたらと考えております。ご協力いただき本当にありがとうございました。シェルターからの感謝をお伝えいたします。シェルターの性格上、名前も場所も明らかにできませんことお許しください。

上條茉莉子会員(NPO法人かながわ女性会議理事長)



～キワニスブログより～ アフリカに ドールを送る活動 「喜びの人形」

2013. 4. 10

入院中の子ども達のために、世界中のキワニスクラブで人形を作っています。しかし、地球の裏

側に届けるために作られる人形は、そうはありません。傾ける情熱に見合わない不経済な状況にもかかわらず、ミシガン地区のキワニス・ファミリーは、複数年にわたって色とりどりの人形をアフリカ大陸にある各国へ贈り続けています。

きっかけは、サハラ砂漠以南のアフリカと、アメリカとの間で実施されたパートナーシップ事業を基に、とあるキワニアンが一人で始めたことでした。カラフルな人形とドレスを縫って送るという行為が、いつの間にか地区全体に広まったのです。パット・キロフさんには、5歳で心臓の大手術を受けた孫がいます。お気に入りの人形を抱きしめながら手術台に向かう孫を見守ったおばあちゃんは、病気の子も達にとって、病院でおもちゃもなく心寂しい思いをしているときに、人形の存在がどれだけ大きいか、身を持って知っています。地区内の子も達に奉仕する傍ら、「子ども最優先」の議長として関わっていた時、子ども病院に送るために製作した人形を募ったところ、このプロジェクトが山火事のようにみるみる広まったのです。アクション・クラブやキー・クラブ、国際サークルKを含めた44のクラブが参加して、最初の送り先に向けて、1,200以上の人形を製作しました。その送り先が、ケニアでした。

人形の縫製は、単なる手始めに過ぎませんでした。レイチェル・ストローザー-オクムさんは、ケニアのキスムで、キスム青少年サッカー協会に勤めるキワニアン。彼女が英国サッカー協会と協働のボランティア・ミッションを運営していたときのこと、見逃せないチャンスがめぐってきました。

ストローザー-オクムさん曰く、「英国サッカー協会は、寄付された物資を届けるために、とんでもない額のお金を調達して、物資を全部船で送ろうと計画して

いたんです。そこで、彼らにメールして、人形を送ってもらう事は可能かと問い合わせました。」

人形をイギリスに届けるにあたって、ミシガン州に住むキワニアンを知り合いの船舶輸送業者が役に立ちました。

人形がケニアに届くと、キスム・キワニスクラブのメンバーが配布を担当し、州と地区の病院に入院する子ども達へ、果物と一緒に人形を届けました。

ストローザー-オクムさんは、「この数年で、設備は驚くほど進歩しましたが、マラリアやエイズ、癌の症例がまだまだ多いのを目の当たりにすると胸が痛みます。」と回想します。「人形が子ども達の病気を治したり、状況を変えることはできませんが、人形をもらった子ども達の目が喜びで輝くのは確かです。」

ミシガン地区が製作した人形の数、この他にもコンゴ共和国に作った1,200個と、ナイジェリアへの約1,800個、南アフリカへの400個をあわせると、5,000個を超えます。輸送費用は、知り合いの船舶輸送業者とのつながりを活かして、無料または割引料金で送ることができました。キロフさんは、今後もアフリカを中心としてこのプロジェクトを永続的に行うつもりですが、他の国々への人形送付の要望にも意欲的です。教会関係者によって、100個がニカラグアへ届けられました。

「人形を受け取って笑顔になる子どもが一人でもいれば、私の目標は達成されたんだと思います。このプロジェクトの醍醐味は、子ども達が所有し、それを抱きしめたり、遠慮なく楽しく遊べるものをあげる、ということにあります。」キロフさんはそう語ります。

筆責：コートニー・マイヤー

エリミネイト関係

— UNICEF のカンボジアにおける諸活動を視察して 2013. 2. 18 ~ 22



2月18日から22日まで妊産婦・新生児破傷風撲滅活動の担い手であるUNICEFのカンボジアにおける諸活動を視察する機会を得ました。視察は米国のUNICEF国内委員会であるUS FUND for UNICEFが主催する視察団に参加する形で行われました。参加者は、US FUNDへの大口寄付者代表2名、FUND職員2名、エリミネイト国際委員会副委員長(SLP担当)国

際キワニス職員 2 名、小生の計 8 名でした。

US FUND はこのような視察団を主として大口寄付者を対象に年間約 10 回催行しており、エリミネイト実施に当たり国際キワニスとの間で 3 チームに關係者（主として大口寄付者）を参加させる取り決めを結んでいます。

カンボジアでは母子破傷風はほとんど撲滅されており、1～2 年以内に撲滅宣言が出るところまでできています。その原動力となったのは Health Center 網の展開とワクチンの投与です。Health Center はいわば保健所ですが、日本のそれとはいささか異なり、主たる機能は清潔な出産場所の提供です。写真は我々が訪れた Veal Ang Popel 村の Health Center で赤十字のある建物に分娩室が 3 室あります。左手の建物はワクチン

接種と健康相談が行なわれていました。建物自体は米国海兵隊の寄贈によると掲示されていたいました。ワクチン接種は Health Center のみならず巡回する看護師によっても行なわれており、近くの村の民家の前庭でのワクチン接種の現場も訪れました。

カンボジアでは妊産婦・新生児撲滅のみならず、学校衛生、育児指導、浮浪児対策等の現場も訪れました。約 10～15 年前にキワニスが集めた資金で行った IDD 対策は現在も続けられており、食塩へヨードを添加している現場も視察しました。

横山太蔵エリミネイトプロジェクト
地域コーディネーター



東日本大震災 被災者支援事業について

東京キワニスクラブが昨年 9 月に行った、2 回目の東日本大震災によって被災した水産高校 7 校への支援（総額 492 万円）について、それぞれの水産高校から報告書が届きました。

具体的には、青森県立八戸水産高等学校、岩手県立宮古水産高等学校、岩手県立久慈東高等学校、岩手県立高田高等学校、宮城県立気仙向洋高等学校、宮城県水産高等学校（石巻）、福島県立いわき海



星高等学校の7校ですが、それぞれ、授業に使う教材の整備や課外活動に必要な備品の整備に使い、大変、役立っているとのことでした。

なお、この水産高校への支援については、3年間に

わたって行うこととなっており、去る4月に最後の3回目が行われました。

増田好平広報委員長

靖国神社「慰霊の泉」 献納記念昇殿参拝に参加して 2013. 4. 2

4月2日(火)、靖国神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝に初めて参加いたしました。当日は、生憎の大雨にもかかわらず、35名のキワニアンがご参加されました。神職の先導のもと、本殿に昇殿させて頂き、緒方会長による玉串奉奠に続き、出席者一同、二礼二拍手一礼にて参拝、お下がりのお神酒を頂いてまいりました。本殿から見る雨に濡れた中庭、その向こうにけぶって見える拝殿や参道の景色は、荘厳な雰囲気を醸し出しておりました。

15年程前に、九段坂下にあった金融機関が破綻した際、約1年間、破綻処理のために、その金融機関に出向したことがあります。その間は、市ヶ谷駅で下車し、靖国神社に参拝してから出勤するのが日課となっておりました。その後、その時の靖国神社参拝をきっかけに寺社・仏閣の場所の空気が好きになり、何かお願い事をする訳でもないのですが、月初めには会社の最寄りの神社に参拝してから出勤するようになっていました。それだけに、今回の靖国神社昇殿参拝には特別な思いがあり、昇殿参拝に参加して本当に良かったと思っています

ます。

参拝後、東京キワニスクラブが昭和42年に明治百年を記念して靖国神社に献納した「慰霊の泉」を訪ねました。「慰霊の泉」は、靖国神社の前身である招魂社の建立を提唱した大村益次郎の銅像のすぐ脇にあります。靖国神社に幾度となく足を運んでいながらも、「慰霊の泉」の場所を知ったのは、今回が初めてでした。ここにデザインされているオブジェは、戦没者に清き水を捧げる母をモチーフに造られたとのことですが、設計は、都庁広場の赤いアーチや上野の森の都美術館入口にある巨大なステンレス球体等の作品で有名な井上武吉であるということも、今回の参拝で知ることができました。

解散後、靖国通りの九段坂を下りながら、山の手と下町の境界の高台に、大村はどのような東京の発展を思い描きながら招魂社を建立したのだろうか、ぼんやりと思いを馳せながら会社に向かいました。

狩野市市クラブ新設委員長

平成 25 年ファミリーデー

2013. 5. 31

今年ファミリーデーは、昨年に続き、「破傷風から途上国の母子を守ろう～エリミネイト～」のサブテーマを掲げ、5月31日(金)に、東京丸の内の銀行倶楽部で開催されました。



開会に先立って、キワニスドールづくりの会を開催し、多くの会員並びにご家族の皆様が参加され、20個のドールを作ることができました。また、午後5時30分からの恒例のバザーでは、会員から拠出頂いた多く



の品が短時間で完売しました。

午後5時50分、緒方会長の開会挨拶のあと、ヒクソンフェロー・ゼラーの表彰があり、藤原副会長の乾杯の音頭で懇親の宴が始まり、会員・御家族の方々丁度100人が参加されました。複数のお子さんをお連れになった会員も何組かおられ、にぎやかな宴となりました。

食事をしみながら暫し歓談のあと、アトラクションの部では、まず、日本一のバルーンパフォーマー、シャ

ンさんによる、バルーン・ショーの見事な手さばきに小さなお子様方が目を丸くしておられました。シャンさんがロビーで、子ども達のリクエストに応じている間、会場では、小坂会員もメンバーとなっている平均年齢70?歳のコーラス・グループ「アゲイン」の皆様が若々しい歌声で、懐かしいポップスを熱唱され、アンコールの拍手が湧き起こりました。

最後はお楽しみの福引大会。人気の家電製品、ホテルお食事券、フラワーギフトカードなどの賞品が提供され、藤沢理秀君とななみさんが抽選する当選番号が発表されるたびに歓声とため息につつまれました。さらに、

バルーン・ショーでシャンさんに作って頂いた巨大なドラゴンなどを特別賞として、子ども達によるジャンケン大会が行われ、大いに盛り上がりました。

和気あいあいのなかに予定の時刻となり、実行委員会からのお礼の挨拶をもってお開きとなりました。

当日のバザーの売上げ、ご寄付、福引券の売上げ等の合計額は744,800円となりました。国際キワニスが全世界で展開しているエリミネイト・プロジェクトに寄付させていただきます。

吉國眞一事業企画委員長

50回を迎えた「なぎさ会」 2013. 2. 14

2月14日(木)、「なぎさ会」の例会は、50回を迎えました。

なぎさ会は、平成20年2月14日に誕生しました。名前の由来は、「**なんとキワニスの酒がうまい会**」の頭文字からです。会長は荒木なぎささんです。キワニスの会員なら誰でも参加できます。何と言っても日本酒が好きな人が愉快地楽しく健康的に飲むことを目的としています。会合は毎月第2木曜日(1月8月は除く)18時からで、新橋の倶楽部エルが会場です。

健康向上のため、一人3合を目安として手酌でマイペースで飲むことにしましたが、このルールは最近だいぶ乱れてきています。

東京で発足した会ですが、平成21年4月からは横浜、埼玉クラブの会員のみなさんにも参加していただき、賑やかに楽しく交流を深めています。

50回記念イベントとして、31名が参加して利き酒大会を開催しました。これはAテーブル、Bテーブルにそれぞれラベルを隠して4銘柄のお酒を置きます。それぞれのテーブルでお酒を少しずつ飲み、AB毎に自分が好きなお酒から順に番号をつけていきます。例えばAの1番とBの3番が同じ銘柄なら正解です。利き酒するみなさんの表情は真剣そのもの。目を閉じたり、上を向いて考え込んだり何回も味わったりと様々でした。その結果全問(4問)正解は、何と1名、それもなぎさ会初参加の鈴木祐二さんで「利き酒博士」に輝きました。正解の秘訣は「気合だ!!」とのこと。2問正解は漆間巖さんと横浜の由井美恵子さんで「利き酒



修士」に認定されました。超辛口や甘口などかなり特徴のあるお酒を選んだのですが、みなさんしきりに首をひねっていました。

また、出席回数の多い会員の表彰を行いました。表彰されたのは、41回参加の秋山誠一さん、36回参加の木村太郎さん、佐藤隆國さんで、ラベルにそれぞれの名前が印刷された世界に1本しかないお酒を記念品として贈りました。

こうして次の目標60回に向けてスタートしましたが、これからも日本文化として育ってきた日本酒をこよなく愛する会員のみなさん同士が、酒を肴に親睦を深めていきたいと思っています。

日本酒に乾杯!!

小野洋一郎なぎさ会幹事

「火曜会未参加者に告ぐ!」

「今からでも遅くない。火曜会に参加しよう」。2.26事件の時、飛行機から反乱軍の兵士に撒かれたビラの表現を拝借しましたこと、お許し下さい。私はそれほど

強く参加を呼び掛けたいのです。

火曜会は、原則として毎週火曜日の12時から13時まで、銀座7丁目の銀座サッポロ・ライオンの2階特



別室で行われており、予約なしの自由参加の会です。最近では、新入会員の参加も多く30名から40名程度の会員が集まる賑やかな昼食会です。

食事は、例会のようなお仕着せではなく、メニューを見ながら自由に注文します。ある会員曰く、「家では妻から脂濃いものはダメと言われているが、此处ではハンバーガー、牡蠣フライ、ビフテキなど何でも食べたい

ものを注文できる。正に至福のひとつだよ。」

先に届いた料理を見て、「それ、とても旨そうですね。来週は僕もそれにしよう」と悔しががる童心丸出しの人。必ずランチビールを注文する人、家では昼からビールと言う訳にはいかないのでしょうか。「ライスは大盛り」と頼む人、「僕は半ライス(小盛り)」と言う人もいます。隠れた人気メニューは「陶板蒸し」と云う、たっぷりの野菜と淡泊な薄切の豚肉を酢醤油で食べるもの。最近登場した「豆腐ステーキ」も美味しそうです。

卓話がありませんから、夫々に好きなことを語り合います。共通の友人の話、時局解説の得意な人、ハイキングで撮ってきた写真アルバムを持参して解説する人など多士済々です。

会費は特別なものを注文しない限り、1100円均一です。2回参加すれば実出席1回にカウントされます。絶対に参加お勧めです。是非ご参加下さい。

木村輝久会員

新入会員オリエンテーションに参加して 2013. 3. 11

3月11日(月)に西新橋の倶楽部エルで新入会員オリエンテーションが開催されました。20人近い新入会員のほか、緒方会長、広畑メンバーシップ委員長はじめ役員の方々も多数参加され、キワニスの精神を学び、相互の親睦を深める貴重な機会となりました。

開始に先立って、キワニスドールづくりの指導もしていただけるというので、それにも参加しました。人形の形の布の袋がすでにできていて、そこに綿を詰める作業ですが、さすがに先輩会員の方々の手馴れたもので、あらかじめ綿を細かくちぎってからバランスよく詰めていくというコツを教えてくださいました。最初は綿が偏ってしまい苦労しましたが、なんとかそれらしい形と



なりました。

オリエンテーションは、来日中のエリミネイト・プロジェクト・キャンペーン事務局副所長のリンゼイ・マーシニアックさんも加わって、キワニスの活動についていくつかの説明がありました。

引き続き、食事をしながら和やかな懇親の場となりました。私は、3月1日の例会で入会を許された直後で、2回目の例会よりも前にこのオリエンテーションを迎えたため、同じテーブルで一緒した方々もほとんど初対面でした。しかし、皆さん、各界で活躍されてこられた人生経験豊富な方ばかりなので、共通の体験や、共通の知人の話で盛り上がり、すぐに打ち解けることができ、このとき初めてキワニスクラブの一員になれたんだという実感がわいてきました。

新入会員もはやくクラブに慣れて、さまざまな活動に積極的に参加し、少しでも社会に貢献できるよう努力していきたいと思います。

鈴木健司会員



2013年2月から5月までの活動

2013年 2月	1	第2141回例会キワニス・ユース・フォーラムの紹介 各団体による活動報告	
	4	千代田女学園女子高等学校でのドールをつくる会(授業)	
	5	火曜日	
	6	東京海上日動火災保険㈱社会貢献プログラム ドールをつくる会	
	10	第36回文楽を楽しむ会	
	12	火曜日	
	12	第60回国際懇話会(講師:菅野雅明氏)	
	14	第50回日本酒を楽しむ会(50回記念利き酒会)	
	15	第2142回例会キワニス・ユース・フォーラムの紹介 各団体による活動報告	
	16	静嘉堂文庫美術館「受け継がれる東洋の至宝 Part III」	
	17	第36回文楽を楽しむ会	
	17	金町学園ドールをつくる会	
	18	千代田女学園女子高等学校でのドールをつくる会(授業)	
	19	火曜日	
	21	東京海上日動火災保険㈱社会貢献プログラム ドールをつくる会	
	21	宝塚観劇会月組公演	
	21	ワインを楽しむ会(第14回)	
	23	第1回バレエ鑑賞会「ジゼル」	
	24	第36回文楽を楽しむ会	
	25	JCB 社会貢献プログラム ドールをつくる会	
	26	火曜日	
	26	第64回囲碁愛好会	
	26	東京海上日動火災保険㈱社会貢献プログラム ドールをつくる会	
	3月	1	第2143回例会(講師:木藤繁夫会員)
		1	エリミネイト支援グレンミラーのサウンドを楽しむ会
		5	火曜日
7-9		第38回ASPAC 広島大会	
11		新入会員オリエンテーション	
12		火曜日	
14		第51回日本酒を楽しむ会	
15		第2144回例会(講師:間渕 豊氏)	
15		ドールをつくる会(例会後)	
17		第20回落語鑑賞会	
19	火曜日		

3月	20	第1回オペラを楽しむ会「アイーダ」
	21	第61回国際懇話会(講師:藤崎一郎氏)
	22	第4回美術を楽しむ会
	26	火曜日
	26	第65回囲碁愛好会
	29	第2145回例会(講師:末綱 隆会員)
4月	2	靖国神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝
	2	火曜日
	4	盲導犬 富士ハーネス見学会
	5	第2146回例会(講師:愛甲次郎氏)
	9	火曜日
	10	春季ゴルフ大会(我孫子GC)
	11	第52回日本酒を楽しむ会
	14	第21回落語鑑賞会
	16	火曜日
	17	東京海上日動火災保険㈱社会貢献プログラム ドールをつくる会
	18	宝塚観劇会(花組公演)
19	第2147回例会(講師:馬場典子氏)	
23	火曜日	
23	第66回囲碁愛好会	
25	歌舞伎座柿落四月大歌舞伎	
5月	7	火曜日
	9	第53回日本酒を楽しむ会
	11	エリミネイト支援チェロコンサート
	14	火曜日
	16	宝塚観劇会(宙組公演)
	17	第2148回例会(講師:岩谷英昭氏)
	19	第37回文楽を楽しむ会
	21	火曜日
	26	大相撲夏場所観戦会
	26	第37回文楽を楽しむ会
28	火曜日	
29	アクセンチュア社会貢献プログラム ドールをつくる会	
31	第2149回例会 第64回ファミリーデー	

2013年6月から9月 今後の予定

2013年 6月	4	火曜会	
	7	第 2150 回例会(講師：村山昇作氏)	
	8	田園調布学園キワニスドールをつくる会	
	11	火曜会	
	12	日本メトロニック社会貢献プログラム ドールをつくる会	
	13	第 54 回日本酒を楽しむ会	
	15	第 5 回キワニスドールシンポジウム(パソナグループ本部)	
	16	第 22 回落語鑑賞会	
	18	火曜会	
	19	第 62 回国際懇話会(講師：宮家邦彦氏)	
	20	宝塚観劇会(雪組公演)	
	20	ワインを楽しむ会(15回)	
	21	第 2151 回例会(講師：武田洋子氏)	
	23	静嘉堂文庫美術館「せいかどう動物園ーいきものをめぐる(ゾネゾ)」	
	25	火曜会	
	25	第 68 回囲碁愛好会	
	26-29	第 98 回国際キワニス年次総会バンクーバー大会	
	7月	2	火曜会
		5	第 2152 回例会(講師：森 孝一氏)
6		第 1 回キワニスユースフォーラム交流会	
9		火曜会	
11		第 55 回日本酒を楽しむ会	
12		歌舞伎座柿茸落公演第 2 弾歌舞伎観劇会	
14		歌舞伎鑑賞教室	
16		火曜会	
16-18		祇園祭見学会	
19		第 2153 回例会(第 47 回社会公益賞贈呈式)	
23		火曜会	
23		第 69 回囲碁愛好会	
30		火曜会	

8月	2	第 2154 回例会(講師：田島高志氏)
	6	火曜会
	20	火曜会
	22	宝塚観劇会(星組公演)
	27	火曜会
	27	第 70 回囲碁愛好会
	30	第 2155 回例会(講師：齋藤 蒔名古屋クラブ会員)
9月	3	火曜会
	6	第 37 回国際キワニス日本地区年次総会新潟大会
	10	火曜会
	12	第 56 回日本酒を楽しむ会
	13	第 2156 回例会(講師：森田 明氏)
	16	第 38 回文楽を楽しむ会
	17	火曜会
	20	第 2157 回例会(講師：吉川久子氏 / 臨時総会)
	21	第 29 回青少年教育賞贈呈式
	22	第 38 回文楽を楽しむ会
	24	火曜会
	24	第 71 回囲碁愛好会
26	宝塚観劇会(月組公演)	

■平成 25 年 5 月 31 日現在 総会員数 232 名

■平成 25 年 2 月 1 日から 5 月 31 日までに入会された方 6 名

植松 信一、鈴木 健司、工藤 富之 鋳川 陽介、中村 薫、増矢 孝

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気の子どもの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウムを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成 18 年 7 月 14 日に、商標登録いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて

キワニスはユニセフと共同で世界から母子破傷風を撲滅する活動を展開しています！

2015年までに1億1千万ドルを募金し、6,100万人の母子の命を救う活動です。日本のキワニスクラブはこの活動に賛同し、募金活動を行っております。

母子破傷風についての基本データは

- 破傷風は、9分に1人、毎日、160人の赤ちゃんの命を奪っている。
- UNICEFでは、2000年からこれまで20か国で母子破傷風の撲滅に成功し、残る40か国での撲滅を国際キワニスとUNICEFが協力して行い、世界からの撲滅を目指すこととなった。
- 破傷風ワクチン3回を妊産婦に注射すれば赤ちゃんまで免疫が得られる。
- 1回60セント、計3回1.8米ドル(約140円)の注射で母と将来の赤ちゃんの命を守ることが出来る。

エリミネイト・プロジェクトは、6,100万人のお母さんと赤ちゃんを助けることが出来ます。



日本は破傷風撲滅の先駆者—誇りを持ってこの活動を推進しよう！

破傷風撲滅というと、日本にはあまり関係がないと思われる方もいるかと思いますが。実は、破傷風菌と戦い、世界に先駆けて、破傷風菌の純粋培養に成功し、破傷風の免疫体を発見し、血清療法を確立したのは、日本の細菌学者北里柴三郎博士でした。日本はこの分野での世界の先駆者です。今回のキワニスクラブでの母子破傷風の撲滅に対するエリミネイト・プロジェクトのスタートに当たっては、既に北里研究所と北里大学より、2011年の日本地区千葉大会での特別講演等も含め特別の支援を受けています。日本地区は誇りをもってこの活動を推進しましょう。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どものための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約80ヶ国、8,000のクラブ、約23万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎の順に生まれ、現在29のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 緒方 謙二郎 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwaniis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>